



株式会社田中化学研究所

2014年3月期 中間決算説明会
2013年12月2日

Tanaka Chemical Corporation

目次

1. 中間決算ハイライト
2. 2014年3月期 中間期のトピックス
3. 製品別販売数量推移
4. 営業外収支および特別損益
5. キャッシュフロー計算書
6. 比較貸借対照表
7. 中期経営基本方針
8. 2014年3月期予想
9. 通期業績予想のご説明
10. 主原料国際価格推移

中間決算ハイライト

(百万円)

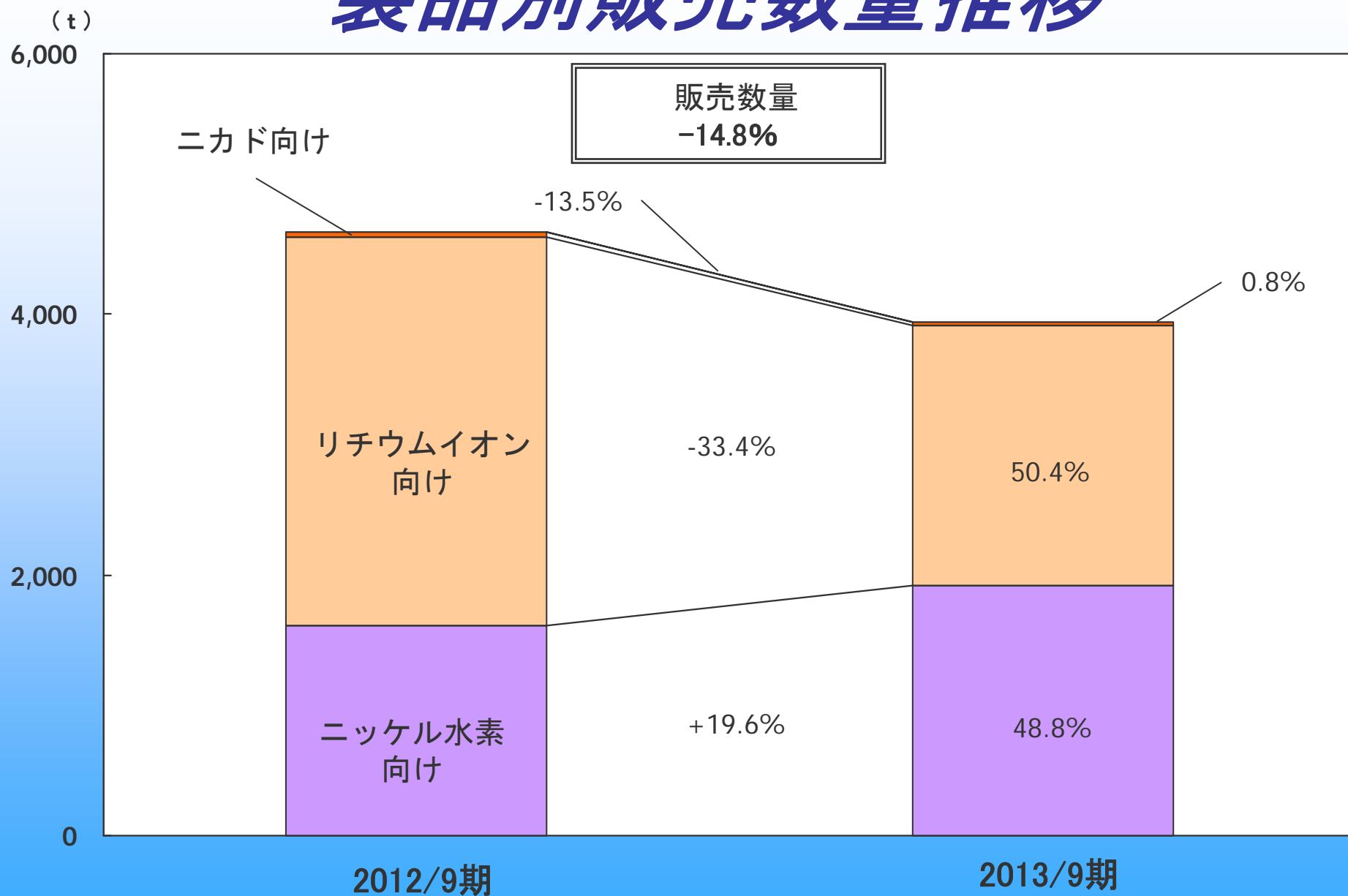
	2013/9期	増 減	2012/9期
売上高	4,433	-427 (-8.8%)	4,861
営業損失	-310	+219	-529
経常損失	-387	+380	-767
中間純損失	-374	+298	-672
EPS(円)	-27.10	+26.05	-53.15
設備投資	90	-119 (-56.9%)	209
減価償却費	592	+33 (+6.0%)	558
期末従業員数	189名	-12	201名

2014年3月期 中間期のトピックス

1. 販売数量は全体で前年同期比14.8%の減少。売上高は前年同期比8.8%減少の4,433百万円。
2. リチウムイオン電池向け民生用途は数量ベースで前年同期比約40%と大幅な減少。環境対応車向けはニッケル水素・リチウムイオンとも好調。
3. 円安で推移したことより輸出取引の採算は改善したが、新興国を中心とした材料メーカーとの競合は継続。
4. 主原料の相場変動はゆるやかであり、約13百万円の利益押し上げ要因に。
5. 設備稼働の遅れにより減価償却費は事業計画対比で圧縮。
6. 住友化学株式会社と業務提携及び資本提携に関する契約を締結。
4月15日には428百万円の払込を受け、125万株の株式を発行。

以上の結果、中間期では経常損失387百万円を計上。

製品別販売数量推移



営業外収支および特別損益

(百万円)

	2013/9期	増 減	2012/9期
営業外収支	-76	+161	-238
金融収支	-58	-12	-45
その他	-18	+173	-192
経常利益	-387	+380	-767
特別損益	+15	-81	+96
税引前中間純利益	-371	+299	-670
法人税等	2	+1	1
中間純利益	-374	+298	-672

キャッシュフロー計算書

(百万円)

摘 要	2013/9期
I. 営業活動によるキャッシュフロー	
税引前当期純損失	-371
減価償却費	+592
(税引前当期純損失+減価償却費)	(+220)
運転資金増減	-784
その他	-22
計 (A)	-585
II. 投資活動によるキャッシュフロー	
有形固定資産の取得	-209
補助金収入	+145
その他	-2
計 (B)	-66
フリーキャッシュフロー(A)+(B)	-651
III. 財務活動によるキャッシュフロー	
長期借入金の返済による支出	-33
株式発行による収入	+428
その他	-1
計	+394
現預金等増減額	-255
期末現預金残高	2,968

比較貸借対照表

(百万円)

	13/3期	13/9期	増 減		13/3期	13/9期	増 減
流動資産	(6,634)	(6,713)	(+78)	流動負債	(3,188)	(2,819)	(-369)
現預金	3,224	2,968	-255	仕入債務	2,472	2,167	-304
売上債権	1,831	2,079	+247	借入金	66	300	+234
棚卸資産	1,363	1,594	+231	その他	649	350	-298
その他	216	71	-144	固定負債	(8,887)	(8,619)	(-267)
固定資産	(9,458)	(8,864)	(-594)	負債 計	12,075	11,438	-636
有形固定資産	9,250	8,598	-651	純資産			
無形固定資産	17	12	-5	資本金	2,086	2,300	+214
投資等	190	253	+62	資本剰余金	2,703	2,169	-534
				利益剰余金	-749	-374	+374
				自己株式	-1	-2	-0
				評価・換算差額等	-21	45	+66
				(自己資本比率)	(25.0%)	(26.6%)	-
				純資産 計	4,017	4,139	+121
合 計	16,093	15,577	-515	合 計	16,093	15,577	-515

中期経営戦略

1. 環境対応車用リチウムイオン電池向け正極材料の開発及び事業構築
2. 民生用リチウムイオン電池向け正極材料の開発及び販売戦略
3. ニッケル水素電池向け正極材料の販売戦略
4. コア技術を活用した新規材料開発
5. コスト力の強化
6. 強靱な組織体制の構築

2014年3月期予想

(百万円)

	2013/3期実績	前年比	2014/3期予想
売上高	9,035	+1,365 (+15.1%)	10,400
営業損失	-1,127	+367	-760
経常損失	-1,600	+630	-970
当期純損失	-1,369	+409	-960
設備投資	499	+31 (+6.2%)	530
減価償却費	1,182	+118 (+10.0%)	1,300
期末従業員数	195名	-6名	189名

(10月25日公表ベース)

※業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

通期業績予想のご説明

1. 当期の業績予想には、ニッケル・コバルト等の主原料メタル価格の変動要因は織り込んでいません。
2. 全体の販売数量は2013年3月期を超えるレベルへの回復を見込んでおります。
回復の中心は環境対応車用途の販売増加であり、ニッケル水素電池で前期比約20%の増加、リチウムイオン電池については前期の10倍を超える数量増加を見込んでおります。
3. 設備投資につきましては、530百万円を計画しております。
また、減価償却費は新工場の稼動による増加を含め、1,300百万円となる見込みです。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

主原料国際価格推移

